（一社）栃木県建設業協会・座談会

「とちけん小町魅力向上委員会」発足

女性目線で現場明るく

イメージ一新 魅力発信

男性社会といわれる建設業界ですが、最近は県内の建築・土木の現場で生き生きと働く女性も徐々に増えてきました。しかしながらいまだに「きつい」、「汚い」、「危険」など3K産業と、若い世代からは敬遠されがちです。一般社団法人栃木県建設業協会（渡邉勇雄会長）では、そうした現場のイメージアップを狙い、同協会の青年経営者連合会（青経連、井戸和廣会長）と栃木県県土整備部が協力し、現場で働く女性をメンバーとした「とちけん小町魅力向上委員会」を発足させました。今回、第1回の座談会を開き「建設現場の環境改善」「業界の魅力アップのためにすべきこと」などについて議論しました。　（企画・制作　下野新聞社営業局）

座談会出席者

建設業協会

栃木県建設業協会青年経営者連合会
会長　井戸和廣氏
＝井戸産業（株）
同連合会　幹事長　猪股弘樹氏
＝（株）猪股建設
中村土建（株）　稲倉亜美氏
松本建設（株）　小野崎恭子氏
（株）山本造園土木　黒川しのぶ氏
川上建設（株）　板和恵氏

行政

栃木県県土整備部
技術管理課検査班　大森由香氏
同部建築課　須藤麻里子氏
同部道路整備課　高妻由香里氏
同部都市整備課　宇紀子氏

女性が活躍できる環境づくり

（一社）栃木県建設業協会
会長　渡邉勇雄

建設業界では、地域の社会資本整備等に貢献してきた技術者等の大量退職に加え、若年就業者の減少等により、将来の建設業を担う人材の確保・育成が喫緊の課題であり、建設業の必要性等を県民の皆様に御理解いただけるよう、PR等に努めております。このような中、男性社会といわれてきた各産業界では、活躍する女性達がクローズアップされるなど様々な面で変化しており、建設業界でも女性の活躍できる環境づくりが重要な時期を迎えております。1986年に「男女雇用機会均等法」が施行され、また、本年4月には「女性活躍推進法」が施行されたことから、女性の活躍の場が、ますます飛躍的に広がるものと考えております。

●**司会　猪股**　「とちけん小町魅力向上委員会」座談会を開催します。まず井戸会長からごあいさつをお願いします。

●**井戸**　男性社会といわれる建設業界で、女性が活躍できる場を少しでも広げようと委員会を持ちました。今後、女性ならではの目線を生かし、女性も活躍できるよう委員の魅力を発信していただきたいと思います。

とちけん小町への思い

―委員会は昨年度から活動が始まっていたようですね。

●**小野崎**　建設業界の4人、行政から4人で3月から活動を始めました。初に顔合わせと意見交換を実施し、お互の現状を確認しました。当時は県土整備部庁舎内で会議を行ったりしていました。職場環境づくりの一助となるよう現状見学会を実施しました。最初は、公益財団法人建設業福祉共済団の全面的な御支援に、心より感謝申し上げます。

井戸会長

本会においたましては、女性が活躍できる環境のありり等を模索するため、栃木県と栃木県建築会青年経営者連合会が協力し、業界の第一線で活躍する女性技術者と県土整備部に所属する女性技術者による、職場環境の改善等に関する意見交換の場を設けていただきました。女性ならではの感性と視点による意見が集約され、具体的かつ実現性のある職場環境づくりに取り組むことなる期待しております。結局、この度の企画により、栃木県の県建築会青年経営者連合会が連携し、業界の第一線で活躍する女性技術者と県土整備部に所属する女性技術者による、職場環境の改善等に関する意見交換の場を設けていただきました。今回、第1回の座談会を開き「建設現場の環境改善」「業界の魅力アップのためにすべきこと」などについて議論しました。

議題などについて話し合ってきました。

●**黒川**　9案を出て、組織イメージ、活動の趣旨と踏まえ決めました。栃木県の建設業に携わる女性の会があることが伝わりやすい点、今後建設業界に入ってくる若者や女性にも魅力ある業界にしてほしいという思いを込めました。

―自己紹介と、業界に入ったきっかけや仕事の内容を教えてください。

●**柏倉**　民間建築物の現場で現場代理人をしています。幼いころからインテリアに興味があり、「自分の部屋をもっと広くできるようにはどうしたらいいか」と考えるようになったのが業界を生きるきっかけでした。また祖父が大工であったのも影響しました。

●**小野崎**　設計の仕事に従事したかったので入りました。現在は、建築現場ではなく工程管理、予算管理、施工図作成など最初から最後まで行っています。

●**黒川**　公園の造成工事現場で、現場代理人や建設重機の作業など、土木全般に携わっています。中学の時、父に「これからの時代は、女性も手に職を付けなければ」と言われ土業高校に進み建築を勉強しました。でも自分は、建築があってないなと思い、当時の上司の助言も受けて土木の世界に飛び込みました。

●**板**　国道50号の舗装修繕工事で現場代理人をしています。業界に入ったきっかけは、勤め先で資格取得の話をもらったからです。資格は自分の生活になくてはならないものです。それまでは気に留めることもありませんでしたが、ちょっとした偶然から土木工事に携わるようになりました。

●**雫**　土木職として入った、現在は都市整備課で県が整備を行う街路事業に関する計画図案や予算管理などに携わっています。学生時代に建設物ができるまでを描いたテレビ番組を見て土木に興味を持ちました。生まれ育った栃木で働きたいという気持ち も職員を選んだ理由の一つです。

●**須藤**　建築職員として県に入り、県有施設の建築工事に係る設計・工事の監督業務に携わり、現在基礎工事の整備係の仕事をしています。小さい頃からものを作ることが好きで、変わっていきました。建物には人を集め、動かす力があり、何より地図に残るものであることに魅力を感じています。

●**大森**　技術管理課検査班で各課発注の委託や工事が発注通り出来ているか検査しています。昔テレビでゴジラなどが街を破壊するシーンを見て、もう一度街を作り直す事を考えたのがきっかけ。新しいゴジラは宇都宮で撮影され、栃木県議会棟が目抜き通りの設定です。議会棟がゴジラに踏み潰されていない心配です。

小野崎氏

黒川氏

板氏

建設現場の実際

―建設現場は「男性社会」などといわれますが、女性の目線でせどうしてしようか。

●**小野崎**　私が入った頃は、男性一色の現場で職人さんから女性は珍しいねと言われました。現場事務所に初めて来る営業のこの大工は、男性管理者の所に向かわれてしまいます。やはり「男社会なのだな」と思ってしまいます。

●**大森**　私の入庁時、県土整備部の女性技術職の先輩は一人だけでした。女性技術職員もたくさん増えましたが、いまだに外部の方は技術職とは思わないのか目の前を素通りされる事があります。

●**黒川**　入社した当時、女性はいませんでした。現場でも「変わってるね」と言われたり、通りすがりの人に「土木現場に女性がいた」と注目されました。私も若かったので気にしなかったし「注目されるのもいいことかな」と思っていました。現場では職人さんにかわいがってもらいました。

●**髙妻**　私も入庁1年目の職場で、女性は私一人でした。当時は県土整備部庁舎で女性も多くいましたが、今は少なく、職場として優れないと思いますが、温かく迎えていただきました。

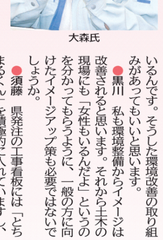
●**柏倉**　同僚で、先輩に恵まれて仕事ができていると思っています。でも、男性社会だと感じる場も多いです。大変な点は、男性が飛び交う体を張った仕事が多く、まさに男性一色の現場。暑い日などは脱げばいいものですが、やはり女性の意識は変わってきているのではないでしょうか。

●**須藤**　県発注の工事看板には「とちけんくん」を積極的に入れています。仮囲いもイメージアップに使えますよね。工事概要や現場のPRだけでなく、例えば子供たちが描いた絵を仮囲いにプリントするなど、地域の方とのコミュニケーションがとれ、現場の前を通る人が笑顔になれるような仕掛けもイメージアップの一つだと思います。

●**雫**　現場を整理整頓することで、道路工事に携わる安全対策や環境改善の取り組みなど、工事現場における安全対策や環境改善も業界のイメージアップの一つであるなと思います。

●**柏倉**　「3K」のイメージをなくすのは大変だと思います。それで、それで許される時代では通らない思いです。環境改善は必須事項です。弊社でもノー残業デーを始めたり、工事の導入で業務の効率化を図っています。対外的には インターネットのホームページや、フェイスブックで、日々の出来事を発信しています。外部へのPRと内部の働きやすさの両面でバランスが取れればイメージも良くなるでしょう。

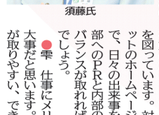
●**雫**　仕事にメリハリをつけることも大事だと思います。残業が少ない、休暇が取りやすい、できる事とできない事がわっていくべきだと思います。



大森氏

須藤氏

高妻氏



雫氏

イメージアップのため

―業界のイメージを変えるにはどのような改善策が必要だと思いますか。

●**小野崎**　やはり衛生管理です。女性専用トイレや更衣室など身近なところの整備が、ますます進むとイメージも改善されていくと思います。

●**大森**　いまだに現場の仮設トイレは「汚い」「臭い」「鍵が不安」などマイナスなイメージがすぐ浮かびます。初めて現場を担当した時、先輩に現場事務所のトイレに入る勇気がありませんか！」と聞かれた事を思い出します。現場のトイレは男性にとっても勇気を持って使うものなのかなと思いました。最近は女性専用トイレなど設置する現場も増えていると聞きます。建設現場の職場環境を改善する業界のイメージアップにつながりますよね。

●**柏倉**　逆転発想ですが、私は男性の更衣室を設けてほしいです。現場に女性がいて平気で着替えを始める男性もいるんです。そうした環境改善の取り組みがあってもいいと思います。

●**黒川**　私も環境整備からイメージは改善されると思います。それから土木の仕事は「汚い」「きつい」というのに向かってイメージアップの一つとして、一般の方に現場の前を通る人が笑顔になれるようなコミュニケーションがとれ、地域の方とのコミュニケーションがとれ、現場の前を通る人が笑顔になれるような仕掛けもイメージアップの一つだと思います。

●**雫**　現場を整理整頓することで、道路工事に携わる安全対策や環境改善の取り組みなど、工事現場における安全対策や環境改善も業界のイメージアップの一つであるなと思います。

●**柏倉**　「3K」のイメージをなくすのは大変だと思います。それで、それで許される時代では通らない思います。環境改善は必須事項です。弊社でもノー残業デーを始めたり、工事の導入で業務の効率化を図っています。対外的には インターネットのホームページや、フェイスブックで、日々の出来事を発信しています。外部へのPRと内部の働きやすさの両面でバランスが取れればイメージも良くなるでしょう。

●**雫**　仕事にメリハリをつけることも大事だと思います。残業が少ない、休暇が取りやすい、できる事とできない事が明確、などが改善されれば、男女問わず働きやすい環境になると思います。核家族化の進む現代で、出産、子育てなどのライフイベントは男女問わず避けられないものです。そして、その辺のイメージアップも必要です。

●**髙妻**　仕事も大事ですが、同じくらいに家庭も大事です。両立するのはなかなか難しいですが、そういった点で、部上司が職場に必要なかもしれないなと思います。

●**柏倉**　一番感じるのは衛生面です。入社当初は現場の男女比は男女半数でした。最近は少しの現場でも女性専用トイレもあります。トイレだけではなく、更衣室、休憩所の分煙の徹底など衛生面の改善も進めています。

●**小野崎**　現場に私がいて変わったと思えることはないんですが、昼間は現場、夕方から事務所業務が人数の不大変な職場になりました。

●**板**　私のいる現場は現場事務所もなく、仮設トイレも男女兼用、それも電気がないので、夜間は真っ暗になってしまいます。トイレだけでは、女性の方の面でも、男性社会だと感じる場も多いです。でも、男性社会だと感じる場も多いです。大変な点は、男性が飛び交う体を張った仕事が多く、まさに男性一色の現場。暑い日などは脱げばいいものですが、やはり女性の意識は変わってきているのではないでしょうか。

しかし環境整備の面ではじめ、今は まだ、女性も働きやすい環境とは言い難いと感じます。ただ、女性が珍しいということもあり、周囲が必ず通って接してくれているのも感じます。少なからずうれしいです。

―実際、業界に入った当初と比べて職場環境に変化は感じますか。

●**黒川**　今回受けた仕事で、現場の看板を変えようという話があって、他と違う私らしさを出してもらおうと、看板をコンパクトにして、桜の花を パックに入れ、かわいらしいクマの絵を入れてもらいました。「かわいい看板だよね」と声を掛けてもらったりしています。

●**雫**　女性技術者が増えた点です。入庁当時、土木職の女性は3人程度でしたが、今は約人を超えています。入庁当時は女性がいないことで心細くもありましたが、最近は土木職の女性同士で同じ職場になることも増えて相談事もやすくなり、働きやすくなってきていると思います。また、「トンネル工事に女性は携われないよ」と言われましたが、労働環境の改善や法律の改正により、女性も携われるようになったことは現場環境における変化だと思います。

●**柏倉**　同感です。現場に女性が増えて相談事もやすくなり、働きやすくなってきていると思います。また、「トンネル工事に女性は携われないよ」と言われましたが、労働環境の改善や法律の改正により、女性も携われるようになったことは現場環境における変化だと思います。

●**小野崎**　現場に私がいて変わったと思えることはないんですが、昼間は現場、夕方から事務所業務が人数の不大変な職場になりました。

●**板**　私のいる現場は現場事務所もなく、仮設トイレも男女兼用、それも電気がないので、夜間は真っ暗になってしまいます。トイレだけでは、女性の方の面でも、男性社会だと感じる場も多いです。でも、男性社会だと感じる場も多いです。大変な点は、男性が飛び交う体を張った仕事が多く、まさに男性一色の現場。暑い日などは脱げばいいものですが、やはり女性の意識は変わってきているのではないでしょうか。

しかし環境整備の面ではじめ、今は まだ、女性も働きやすい環境とは言い難いと感じます。ただ、女性が珍しいということもあり、周囲が必ず通って接してくれているのも感じます。少なからずうれしいです。

―実際、業界に入った当初と比べて職場環境に変化は感じますか。

●**黒川**　今回受けた仕事で、現場の看板を変えようという話があって、他と違う私らしさを出してもらおうと、看板をコンパクトにして、桜の花を パックに入れ、かわいらしいクマの絵を入れてもらいました。「かわいい看板だよね」と声を掛けてもらったりしています。

●**雫**　女性技術者が増えた点です。入庁当時、土木職の女性は3人程度でしたが、今は約人を超えています。入庁当時は女性がいないことで心細くもありましたが、最近は土木職の女性同士で同じ職

柏倉氏

猪股幹事長

業界の魅力を発信

―委員の皆さんが思う業界の魅力をアピールしてください。

●**黒川**　土木に詰問し現場が一度ないんです。土の質なども異なるのでなかなか毎回新鮮な気持ちで臨んでいます。近隣の方との距離も近いので、道路が出来上がった時に「よかった。これで出入りしやすくなったよ」などと感謝されると、この仕事を続けて良かったと思います。

●**髙妻**　近年の自然災害によって、道路、橋など河川構造物の必要性が再確認されつつあります。生活するとでなくてはならないものを造り、守っていく建設業は、誇り高い仕事。計画から完成までの全工程に携われるのは土木公務員の醍醐味です。体力を要し大変なこともありますが、業者の方と試行錯誤しながら一丸となって造り上げたものが完成したときは、大きな達成感があります。

●**小野崎**　建物が一つ一つ形になっていく姿を間近に見られたり、常に建築現場は「一期一会」です。特に完成した時の達成感は何ものにも代えがたいものがあります。

●**須藤**　工事をしていると いろいろなハプニングがあります。それを現場の代理人さんや職場の先輩と話し合いながら問題を解決していくので、答えは一つではありません。設計図は同じでも、作り手側の配慮や創意工夫によってより良いものの完成していく、そんなやりがいの仕事の魅力の一つであり、皆さんの財産をつくる「翼を担うという誇り高い仕事です。

―ではその「魅力」を伝えていくには、どのような活動が良いと思いますか。

●**雫**　安全性の確保などの課題もありますが、際に重機に乗るなどの体験型のイベントは子供たちに興味を持ってもらえるのではないでしょうか。県の事業では、舗装施工前の路面でのお絵かきイベントなどを実施している事例があります。また、工事の経過がわかるような見学会など、見せ方を工夫すると建設業に対する興味も深まると思います。

●**小野崎**　一般の方に現場を知ってもらうためには、現場見学会もいいます。特に工業高校、大学の工学部の学生をインターンシップとして受け入れる事業が効果的だと思います。

大森　以前、青年経営者連合会と高校生で子供向けに業界のPR紙等展を作ったと聞きましたが、対象を子供向けとした集まりで按摩するのも魅力発信につながるのではないでしょうか。

●**柏倉**　実際に現場を見てもらうほかに、現場内のイベントの中で、「3S活動」や「近隣の清掃活動、地域のイベントの中で、残業デー」現場研修会は参加者だけへの情報発信なのでなく、多くの人に知ってもらうための活動として、ITを使ったりさまざまなメディアを利用して発信していく必要があるでしょう。

―委員会では今後どのような活動ができると思いますか。

●**黒川**　あいさつ運動などコミュニケーション活動は現在も実践しています。また、女性ならではの視点として清潔感のある現場事務所の整理整頓、身だしなみについて声掛けをするなどの活動もイメージアップとして発信できるのではないでしょうか。

●**大森**　栃木県の建設業界のイメージを探すのもいいと思います。とちけんのロールモデルを発掘するのはどうでしょうか。

●**小野崎**　学生を対象にするならばインターンシップの活用もあると思います。そうしたことを進めるためにもトイレだったり現場の整備なども平行してしっかり行って、次の世代をがっかりさせないための整備も行っていくべきだと思います。

●**須藤**　「女性でも働ける職場」という視点で研修会や現場見学会を開催すれば、学生だけでなく転職を考えている方にも働きかけることが出来そうですね。専門的な世界に見て入るには勇気がいることだと思うので、初歩的なことから気兼ねなく意見交換ができる場があれば心強いサポートになると思います。

―最後に、今回の座談会を受けて一言お願いします。

●**井戸**　コミュニケーションの重要性、男女問わないワークライフバランスの意見があります。また、青年経営者連合会でも、県内10支部ある中で総合青年経営者銘打って、重機の体験や測量実習などを通じPRしました。低学歴の取り組みもその一つです。魅力を向上させるためのイメージアップ活動などで、この先少しでも女性の従事者が増え、この業界の未来が明るくなることへ向けて努力していきます。具体的な活動の第一弾として、委員会に上る「今現場どうなってる？綺麗な女性社会」を実施したいと思います。今後もちけん小町魅力向上委員会の活動の支援をよろしくお願いいたします。

●**猪股**　委員の皆さん、ありがとうございました。とても有意義な座談会でありました。現場環境の改善、建設業界の魅力発信などを議論したばかりです。改善点やヒントもありましたし、女性ならでは の「逆転の発想」もありました。今後も魅力ある栃木の建設業界を目指し活動していきます。

（敬称略）

事業主のみなさん、この機会に「大きな安心」にお入りください。

公益財団の建設共済保険

法定外労災補償制度

平成28年4月より、労働安全衛生推進事業スタート！　詳しくはHPへ。

●建設業界による自主的な共済保険で保険料が安い。
●元請・下請問わず無記名で補償。
●元請・下請それぞれの保険契約者へ重複支払い。
●企業の諸費用部分も補償。
●事業主（保険契約者）への速やかな支払い。
●経営事項審査において15点の加点。

「建設共済保険」の他にも、次のような事業を行っています。
［育英奨学事業］
被災者（死亡および身体障害・傷病3級以上）の子供に対して、要保育期間および小学校から大学までの在学期間中、返済不要の奨学金を継続して給付。

詳しい情報、保険料試算などのお問い合わせは
建設共済保険　検索
Tel.03-3591-8451　http://www.kyousaidan.or.jp/

公益財団法人 建設業福祉共済団
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-22-15 虎ノ門NSビル

■ 取扱機関：（一社）栃木県建設業協会
〒321-0933　宇都宮市築瀬町1958-1
TEL028-639-2611　FAX028-639-2985

地域に安全・安心を！！　暮らしを守る建設業

豪雨災害・大雪災害からの復旧

道路の復旧作業

河川のがれき撤去作業

土砂災害復旧作業

道路除雪作業

（一社）栃木県建設業協会
宇都宮市築瀬町1958-1　TEL028-639-2611

宇都宮支部　TEL028-636-5221
鹿沼支部　TEL0289-65-2020
日光支部　TEL0288-54-0140
芳賀支部　TEL0285-82-2051
下都賀支部　TEL0282-24-5420
塩谷支部　TEL0287-43-0142
那須烏山支部　TEL0287-22-2124
烏山支部　TEL0287-82-3161
安足蘇支部　TEL0283-24-3838
足利支部　TEL0284-71-0044